

仙人通信 209 醍醐丸(867m)・市道山(796m)・陣馬山(855m)

陣馬山・醍醐丸・市道山は、相模湖の北側に位置する山並みで、関東ふれあいの道のコースである。又市道山は戸倉三山の一座でもある。

醍醐丸と陣馬山の中央にある和田峠の有料駐車場に車を置き、醍醐丸から市道山の吊尾根を往復後、駐車場に戻り陣馬山へ登る事とした。

和田峠の先にある車両進入禁止の林道を 100m程進むと、左手に生藤山・醍醐丸を示す道標があり、檜林の中の登山道を進む。10分程登ると小さな石祠だ。更に 15分程で高岩山のピークで、東側が落葉樹林となり明るくなる。足元では、花を付けたコウヤボウキやクロモジの木が目立つ。20分程(スタートから 45分)で醍醐丸の山頂だ。北面が水檜等の落葉樹の林となり、この時期梢越しではあるが、これから進む市道山を初め、臼杵山・大岳山・御前山・三頭山・生藤山までが望めた。東側は檜に覆われているも北西方向は水檜・ブナ・楓等で開けた登山道は、10cm程の角材で出来た階段のコースだ。

10分程進むと東側も開けて、高尾山の山脈の先にビル街も望めた。コースは普通の登山道となり、小さなピークを5コ程持つも分岐した尾根の無い吊尾根である。左眼下 10m程には、林道が尾根を巻く様にある。檜林の中を進むこと、40分程で刈寄山との分岐点で、かなり急な登りを 20分程(醍醐丸から 1時間 20分)で市道(イッポチ)山の山頂だ。

山頂からの展望は、南東面の海老名市が望める程度であった。

醍醐丸を経て丁度 2時間(往復 4時間 15分)で和田峠に戻る事が出来ました。

神奈川景勝 50選の山である陣馬山に向かいスタートである。こちらは 700段に近い角材の階段を進む事 25分程で 360°の眺望を持つ山頂である。武田軍を監視する目的で北条氏が陣を置いたことから付いた山名であることが頷ける。50年ぶりに訪れる事が出来た事に感慨だ。富士山は雲の中であったが、南面には丹沢・道志の山脈が・西には生藤山を初め権現山や大菩薩からの峰々が・北には三頭山から御岳山までの奥多摩の山波、その手前には先程登った市道山や刈寄山・東には高尾山の先に東京や横浜辺りまでも確認できた。

展望に満足して車に戻った 5時間半(23000歩)の山旅でした。(R2.12. 1)

醍醐丸山頂



市道山山頂



陣馬山山頂



陣馬山山頂からの奥多摩の山脈

